

横山茶臼山古墳の写真

横山古墳群

県指定史跡

古墳時代

(1800年前～1400年前)

長浜平野の重要地点

平地からもよく見えるぞ！



横山古墳群の配置図

横山古墳群は、長浜平野の東側に南北に横たわる丘陵の上に築かれた古墳群で、現在までに48基の古墳が見つっています。

非常に見晴らしの良い、長浜平野全体を見渡せる位置に作られていることから、ふもとの広い土地を支配した権力者の墓だったと考えられます。

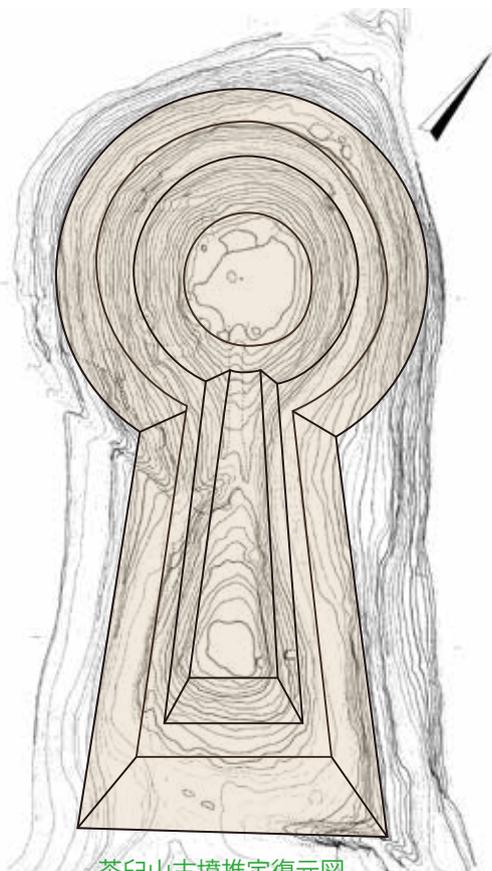
交通の上でも重要な地点であったため、戦国時代には山城として作り変えられています。

長浜市の遺跡 2

長浜市堀部町ほか
昭和44年9月12日指定

代表的な古墳

◆ 茶臼山古墳



茶臼山古墳推定復元図

茶臼山古墳は横山古墳群最大の古墳で、全長100 mの前方後円墳です。

古墳群内で最も北側、平野部に張り出した山の上につくられています。

横山古墳群は北側に古い古墳が多く、南側のもはそれよりも後に築かれた古墳であると考えられています。

ちなみに「茶臼」とは、お茶の葉をすりつぶして抹茶にするための臼の一種です。古墳を横から見た様子が茶臼に似ているためにつけられた名前でしょう。



茶臼と前方後円墳

◆ 龍ヶ鼻古墳群



龍ヶ鼻古墳群は茶臼山古墳の南東の山の頂上にまとまって築かれた古墳群です。前方後方墳や円墳、方墳など様々な形の古墳があります。

一つの古墳群の中でも古墳がいくつかの小さなまとまりに分かれてつくられていることがあり、そのまとまりを「支群」と呼ぶ場合があります。このようにまとまってつくられた古墳に葬られた人たちはお互いに近い関係にあったと考えられます。

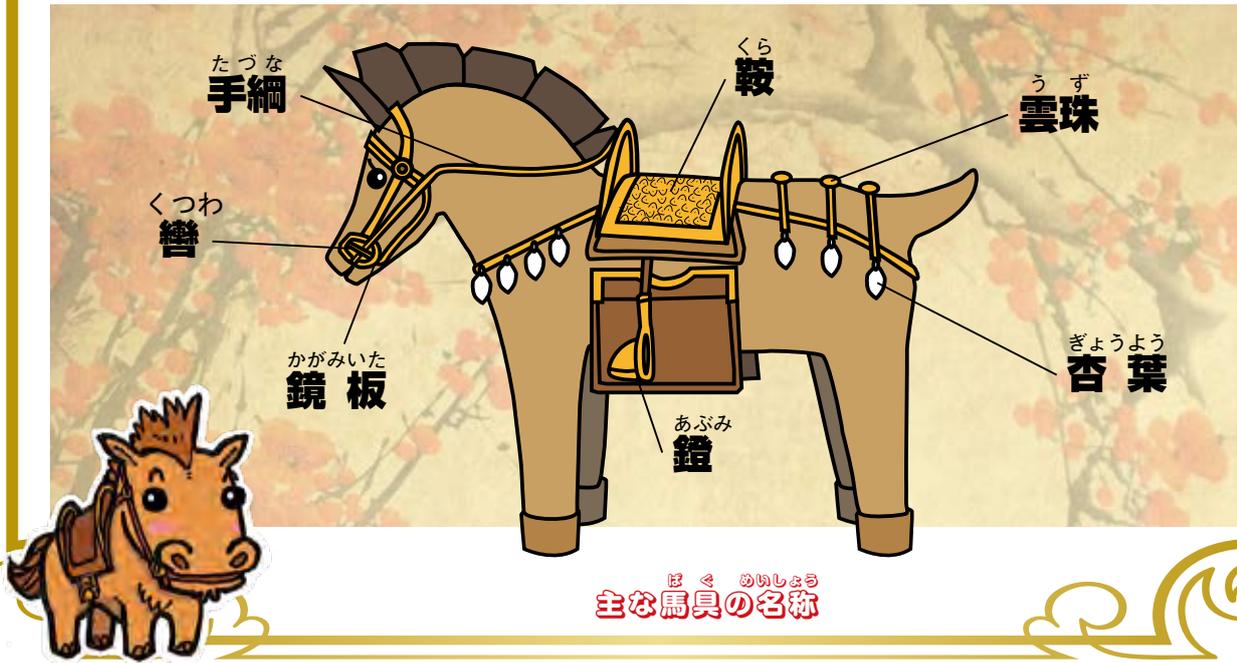
横山古墳群と横山城

横山古墳群は、長浜平野全体を見渡せる山々の上に作られました。この土地は近江（現在の滋賀県）から美濃国（現在の岐阜県）や尾張国（現在の愛知県）などへ向かう時の通り道にあたり、交通の上でも非常に重要な場所でした。横山古墳群は、長浜の支配や姉川の水の利用のほか、他の地域とのつながりを持つ上でも大事な地点につくられたということでしょう。この土地の重要性は古墳時代より後の時代でも変わらず、約900年後の戦国時代（西暦1500年ごろ）には古墳の一部を破壊して「横山城」が建てられました。

横山城がいつごろ建てられたのか、正確な時期はわかりませんが、戦国時代を通して、何度も改修が加えられているようです。戦国時代の中ごろには浅井氏の城として使われていましたが、姉川の戦いの時に織田信長の配下の羽柴秀吉のものとなりました。その後、小谷城を攻めるための拠点として使われたようです。また、織田信長の死後に起こった秀吉と柴田勝家による賤ヶ岳の戦いのときにも改築が行われています。



馬は古墳時代の中ごろに日本に伝わり、終わりごろにかけて広まっていきました。それまで馬に乗る文化は日本にはなかったと考えられています。馬に乗るためには様々な馬具と、調教・飼育のための技術や知識が必要で、当時は身分の高い人しか乗ることができませんでした。特に高貴な人が乗る馬は、金や銀でつくられた馬具をつけて飾られていました。主な馬具の名前は下の図のとおりです。



● 交通アクセス

公共機関：JR 北陸本線「長浜駅」下車、長浜市バス「東上坂」下車徒歩5分
車：北陸自動車道「長浜IC」より 県道 37 号線沿いを東へ約 1 km

● お問い合わせ

ながはましぶんかざいほご
長浜市文化財保護センター
〒526-0802 滋賀県長浜市東上坂町 981 TEL 0749-64-0395